

事業名	漁場生産力向上のための漁場改善実証試験 (漁場生産力低下の原因説明)
予算区分	受託試験研究費
事業実施期間	平成30～令和4年度
担当者	(環境増養殖担当) 朝田健斗, 棚田教生, 嵐俊右, 廣澤晃
共同研究機関等	水研機構, 香川県, 岡山県, 愛媛県, 香川大学

<目的>

紀伊水道西部及び周辺海域のノリ・ワカメ養殖漁場において、海水中の栄養塩(DIN)濃度等の現場観測を行い、漁場生産力低下との関係性を明らかにする。

<方法>

○栄養塩濃度等の定期観測

本事業報告書の「藻類養殖漁場環境調査」を参照されたい。

○養殖ワカメのSPAD値の測定

養殖ワカメの色調の指標となるSPAD値の測定を、紀伊水道南部の阿南市今津地区で行った。SPAD値は、藻体の最大裂葉の欠刻部から裂葉先端に向かって10cmの間で3カ所測定した平均の値を用いた。

<結果>

養殖ワカメのSPAD値は、測定開始時である1月末は7程度であった。しかし、2月以降はやや減少して6未満となり、若干色落ちが確認されるようになった。このようなSPAD値の減少は、同海域のDIN濃度が1月中旬以降常に2 μ M未満と低水準で推移したためと考えられた(図1)。

<今後の課題>

特になし。

<次年度の計画>

継続。

<結果の発表・活用状況等>

本試験の詳細については、「令和3年度漁場環境改善推進事業」のうち「栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発」成果報告書を参照されたい。

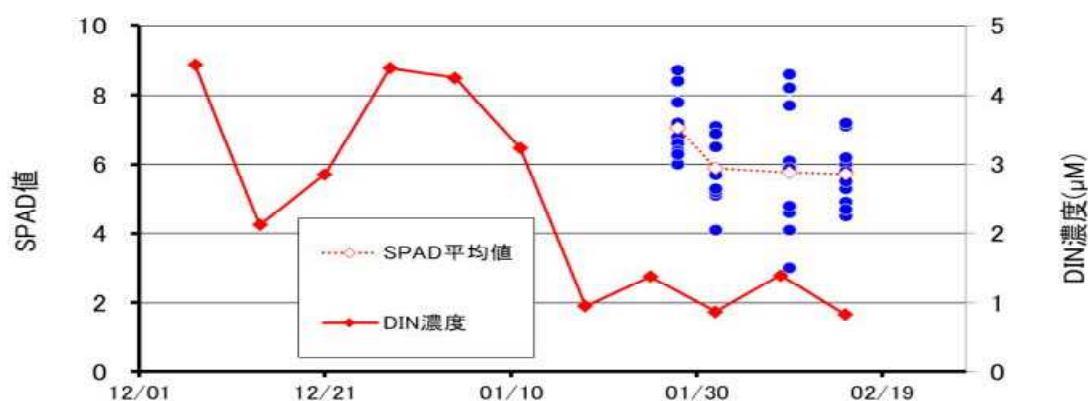


図1. 2021年12月以降の紀伊水道南部のDIN濃度 (μ M) と今津地区のワカメのSPAD値の推移